

2018（平成30年）11月理事会議事録

日時 2018（平成30）年11月9日（金） 13:30～16:00
場所 千葉県総合スポーツセンター射撃場 会議室
出席 理事：深谷雅子、長谷川勝壽、土橋隆一、田中辰美（事務局）
委任出席 理事：霜禮次郎、刈谷洋一、田口亜希、監事：浜村敏弘

（1）2018年度（中間）会計報告および監査報告

2018年度（中間）会計報告について事務局から説明がなされ、浜村監事の監査報告が事務局代読で報告された。

世界選手権の支出が約260万円かかり、強化費の予算より超過しており、日ラ支援金を選手に出した上で不足を補うことが説明された。日ラ正会員会費10万円の支出について深谷理事から質問があり、深谷理事の負担5万円、田中理事の負担1万円に4万円を加えての2人分の日ラ正会員会費であることが説明された。質疑の後、会計報告および監査報告が異議なく承認された。

（2）2019年度事業計画および予算について

正月頃を目途に2019年度予算案を事務局で作成することが事務局から報告された。

（3）パラクレー部会の大会（2019年5月24日～25日実施予定）への支援

浜村部会長から要望が出ている本件について審議した。

当初、パラクレー大会に金銭的な支援はしないということで話を始めた経緯はある。財政的に無理のない範囲でチーム大会にも支援をしてはどうかとの意見が出た。加盟団体および部会の大会に金銭的支援を出す方針で、一定の要件を整備することで承認された。

事務局から、パラクレーについて近いうちにJPCに説明に行くことを考えている旨、報告があった。長谷川理事から、たとえ気持ちだけでも一般会計から出せるものは他の団体と同じように出していいのではないかと、会費をもらっていることに対するなにかのメリットは要と思うとの意見があった。その他、パラクレーに関して、モーターボート選手会の支援の活用をしていること、クラス分け等の整備が必要との事務局から報告があった。

（4）ガバナンス・コンプライアンスの改善および諸規程の整備について

アンチ・ドーピング規定（案）、経理規程（案）、事務所掌規程（案）および倫理規定（改定案）が事務局から提案され、原案通り承認された。

事務所掌規程については、担当が現状空席のままの部会がある。まず規程を整備し、今後担当を検討していくこととなった。深谷理事から、適切な人材がいれば、理事以外の人に担当に入ってもらうことも考えてよいと思うとの意見があった。事務局から、現在、当連盟の正会員は法に定められている下限のちょうど10人しかいないことが報告された。深谷理事から、将来の会長は外部から入れることも考えられるとの意見があった。土橋理事から、役員は競技がいちばんわかっている選手から出すべきとの意見があった。

(5) 長期財務計画 2018 年～2021 年 (案) について

事務局から長期財務計画案が提案され、承認された。今後、適宜見直していきたいので、ご助言をいただきたい旨事務局から各理事に依頼があった。

(6) パラ射撃国際大会の日本開催について

事務局から、WSPS から要望があった経緯および現状の説明があった。田村日ラ副会長に電話相談済み。強化面では MQS が日本で取れるメリットがある。入国空港が大きな課題である。NTC 拡充棟で実施できれば都内実施となり、東京都の助成金が活用できる。パラスキー (バイアスロンを含む) は今冬札幌で国際大会を開催する。選手の銃は、ワンフロアで集中管理としホテルで保管するとのこと。

深谷理事から、準備期間が足りないこと、宿舍が問題であるとの意見があった。土橋理事から、国際的な用具検査を国内でもきちんとトレーニングする必要はある、日本の役員の確保が必要との意見があった。長谷川理事から、シミュレーションだけでもできないかとの意見があった。

来週からもっと判断材料を集めて判断することとなった。

(7) 東京パラ選手強化の状況と選手選考について

土橋理事から、成績・記録は上がっていないが射撃の内容はよくなってきていると、強化の現状報告あり。東京でメダルを取るには、2019 年 2 月のアルアインで最低でも MQS に到達しないと難しい。東京の選考方法は、全日本選手権の結果も見て 12 月に骨子を出していきたい。

長谷川理事 (選手強化部会長) 渡邊 アルアインではバラバラ。だんだん良くなっている。アジパラの選手 試合なれと言っているが。国際大会で吞まれなかったことは感じた。新しいコーチを育てていく必要がある。ライフルは選手が多いので分担をして指導ができるとよいとの意見があった。強化部会で検討することとなった。

事務局から、アルアインワールドカップは予算面からスタッフを絞る必要があるとの説明があった。

(8) 日ラ選手強化支援金について

日ラからの支援金は最終的に 200 万円の支援となり、使途は日障射連で決めてよいことになったことが報告された。支給対象選手は強化部会で検討して、理事会にかける。

(9) NF 割当の 2020 大会ピンバッジについて

NF 割当の 2020 大会ピンバッジについて、日障射連に割り当てられている 5,000 個のうち 4,500 個をすでに配布したことが深谷理事から報告された。長谷川理事からピンバッジをどう使うかは団体で考えるべきこととの意見があり、深谷理事から自分の判断だけで配布をしたのはいけなかったとの謝罪があった。

(10) その他

・パラクレ射撃大会 in 島根の名称変更について

事務局から浜村パラクレ部会長の伺いの説明があり、異議なく承認された。

・役員定年制について

長谷川理事から、今後連盟が活動を維持発展させるためにも役員の方定年制を検討すべきとの意見があった。

・推薦申請の件

事務局から木下裕季子会員のライフル銃推薦に関して説明があり、初段取得時の段級受検の立会い審判の証明を提出させた上で推薦審査にかけることで異議なく承認された。

2018年11月9日

特定非営利活動法人日本障害者スポーツ射撃連盟

議 長 深谷 雅子 

議事録署名人 長谷川 勝壽 

議事録署名人 土橋 隆一 